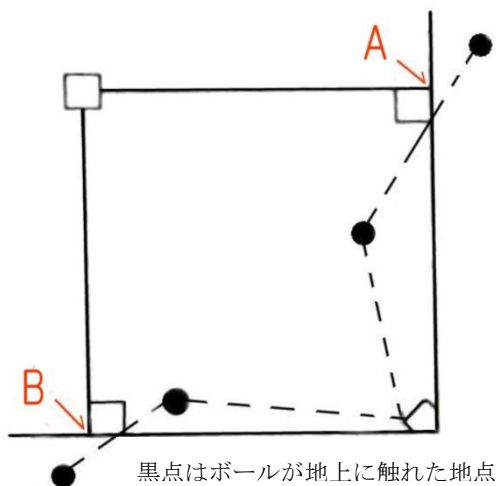


2013年度 野球規則改正の要旨

- **フェアボール** (ルール 2・25)
 (野球規則4頁 巻頭図 第2図参照)

現 行	改 正
<p>いったんバウンドして内野から外野へ越えて行く場合は、A B 両地点を過ぎるときに、フェア地域内又はその上方空間であった場合は、その後ファウル地域に出ても、フェアボールである。</p>	<p>バウンドしながら内野から外野へ越えていく場合には、<u>一塁または三塁</u>を基準として判断すべきであって、<u>一塁または三塁</u>を過ぎるときに、フェア地域内かまたはその上方空間にあった場合は、その後ファウル地域に出てもフェアボールである。</p>



左図の説明

現行では、打球が A・B の基点の上方空間を通過しなければファウルボールであったが、'13年度からは塁の上方空間を通過すればフェアボールとなった。
 (左図はフェアボールの例)

- **打球が再びバットに当たった場合** (ルール 6・05～h)

現 行	改 正
<p>打球が バッターボックス外 (フェア地域) で当たったときは、打者をアウトにする。ただし、バッターボックス外で当たったときでも、打者の片足がまだバッターボックス内に残っているときはファウルボールである。</p>	<p>打球が バッターボックス外 (フェア地域) で当たったときは、打者をアウトにする。ただし、バッターボックス外で当たったときでも、打者の<u>両足</u>がまだバッターボックス内に残っているときはファウルボールである。</p>

参 考 (改正ルール 2・32)

【注1】 打者の所持するバットに、打球 (バントを含む) がファウル地域で触れたときは (もちろん故意でなく)、ファウルボールである。

また、打者が打ったり、バントしたボールが反転して、《まだバッターボックス内にいる》打者の身体およびその所持するバットに触れたときも、打球がバットまたは身体と接触した位置に関係なく、ファウルボールである。

両足がバッターボックス内に残っていないときは、守備妨害が適用されアウトになる。